

夏季教化研修会



小串庁長挨拶

教化実践目標である「氏子意識の啓発と家庭のまっりの振興を目指して」を総合テーマとして夏季教化研修会が8月31日、龍城神社（岡崎市）を会場として開催され、76名が参加した。

午前9時半に龍城神社正式参拝の後、開講式に移り、小串庁長より会場を提供いただいた畔柳宮司に対するお礼を述べ、「氏神様とつながりが希薄になっていることは、我々神職の努力の問題でもある。神職一人一人が神明奉仕を真摯に行う姿をみせることで氏子さんとの関係もできるのではないかと。また少子高齢化が進行し、人口減少社会が進んでいくなか、神社界を取り巻く環境は厳しいものがある。都市部では人々の考え方や生活様式の変化など、お札を頒布する状況も厳しくなっている。そのなかでいかに教化を図っていくのか、各社の努力が重要となるが、本研修を通じて何かを感じ取っていただければ幸いである。本日より研鑽を積んで意義ある研修にしていただきたい」との挨拶があった。続いて龍城神社宮司畔柳春雄氏の挨拶の後、研修に入った。



市橋先生講演



阪本先生講演

午前中の研修では市橋章男氏（おかざき塾歴史教室主宰）を講師として「家康公誕生の背景 ～生誕から人質生活、その背景と実像～」と題した講演があった。本年は徳川家康公が元和2年(1616)に薨去されてより400年の節目を迎えることから、市橋氏からの講演となった。氏は家康公がいつから大名として認知されるようになったかを祖父松平清康とのかかわりから丁寧に解説。受講生からの質問も多数出された。昼食後、小嶋今興教化常任委員から、昨年11月25日・26日に神社本庁で開催された全国教化会議の報告があった。

本年は終戦70年という節目を迎えるなかで、さらなる見識を深めるため國學院大學教授の阪本是丸氏を講師に迎えて「近代日本と靖国神社」と題した講演があった。その中で阪本氏はいわゆるA級戦犯合祀問題にも触れ、分祀の概念は靖国神社では考えられないことを強調、我々斯界の人間こそが先頭に立って、正しい認識を伝えていくことが重要であると述べられた。



講演終了後、参加者は慰霊祭・招魂祭の現状について6班に分かれて分科会を実施した。各分科会ではそれぞれ奉務する神社及び地域での実情について活発な意見交換がされた。分科会終了後、各班代表者による報告がなされた。

閉講式では三浦教化委員長より受講者代表荻野郁雄氏に修了証が手渡され、研修を締めくくった。